

政治学概論Ⅰ

（５）選挙と政党

代議制民主主義と選挙・政党

■選挙＝代表を選ぶ行為 代議制民主主義とともに拡大
代表制と説明責任⇔間接（代議制）民主主義の要件
議会（議員）以外の公職も選挙で選ぶケースが増える

■政党＝代議員が市民の（多様な）意見を代弁するための装置
政策の実現、特定の利益集団が政党の形成を促すとされる
民主主義の進展とともに「政党政治」が一般的になる

※特定階級による制限選挙⇔市民すべてが参加する普通選挙

選挙権（参政権）の拡大

- ・ イギリスなどの例

- 17～19世紀 貴族による議会（上院） 地方領主
- 19世紀前半 富裕層による選挙（下院） 「資本家」 制限選挙
- 19世紀後半 労働者層の政治要求、選挙権の拡大
 - （男子）普通選挙
- 20世紀 第一次世界大戦 女性労働の拡大 選挙権
第二次世界大戦後 完全な普通選挙が一般化

政党政治の拡大と定着

- イギリスなどの例

17～18世紀 議会内のグループが政党化

19世紀 (保守) 二大政党の定着、議院内閣制へ

20世紀 労働者層の政党（左派政党）の登場と成長

右派政党（保守党）と左派政党（労働党）のパターン

政党の役割＝支持層の政治要求の代理、政策と政治家の養成

小選挙区選挙（二大政党）と比例代表選挙（多党制）

選挙と政党の機能不全

20世紀半ば以降 議会制民主主義の定着と拡大

20世紀後半～投票率の低下（政治的無関心）

政治不信、政党不信 無党派層の増加



議会制民主主義（選挙と政党）の形骸化？

行政機能（執政府）の肥大化・専制的政府

民主政の空洞化・ポピュリズム・権威主義体制の活況